

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	伊奈町立南中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	19
生徒数	86	99	110	0	295	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の定着をはかる指導方法の工夫・改善 - 数学科の習熟度別授業を中心として -
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

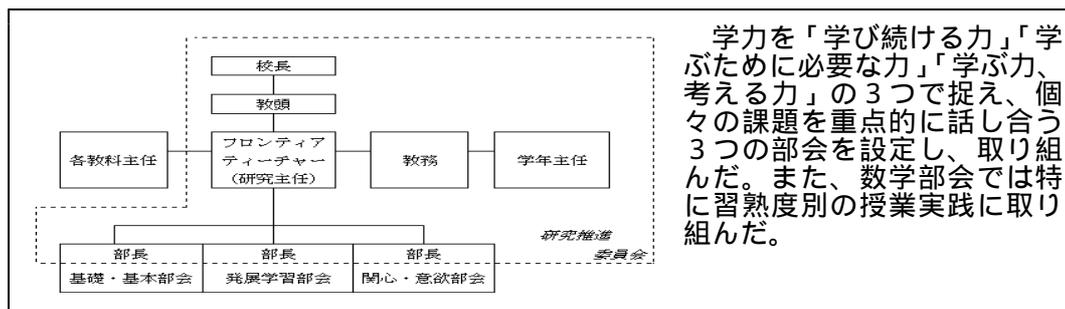
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすく習熟度別の授業が最も効果的な教科、学年であると考えため ・ 1, 2年生・数学 少人数指導できめの細かい指導を実施したいため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 確かな学力の定着をはかる指導方法の工夫・改善 研究の見通し(仮説) 学習指導要領のねらいに即した新しい学習指導を展開する中で指導方法の工夫・改善を図り、分かる授業を展開すれば、自ら学び、自ら考える能力や態度が育成され、確かな学力が身につけられる。 研究の内容・方法 第3学年の数学で、習熟度別の授業を実施するとともに、1, 2年生では少人数指導を行い、個に応じた指導を実践していく。
--------	---

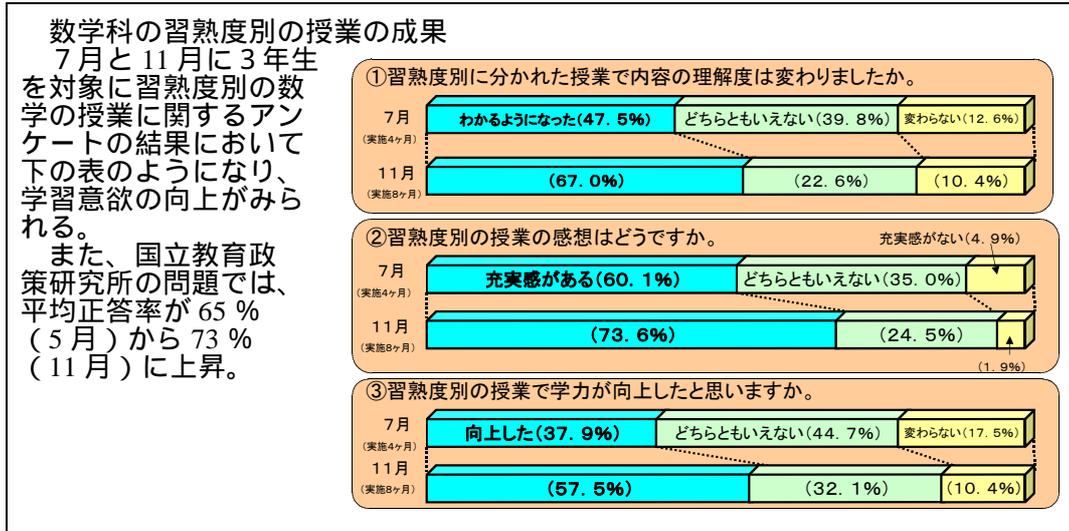
平成16年度	テーマ 確かな学力の定着をはかる指導方法の工夫・改善 研究の見通し(仮説) 学習指導要領のねらいに即した新しい学習指導を展開する中で指導方法の工夫・改善を図り、分かる授業を展開すれば、自ら学び、自ら考える能力や態度が育成され、確かな学力が身につけられる。 研究の内容・方法 第3学年の数学で、習熟度別の授業を実施するとともに、1, 2年生では少人数指導を行い、個に応じた指導を実践していく。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果



2. 今後の課題

- ・ 確かな学力の定着のため、どのような指導方法が効果的なのか、さらに明らかにしていく。
- ・ 生徒の実態に応じた具体的な指導方法や方策について明らかにしていく。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 国立教育政策研究所の問題（一部）（5月、11月、3月）
- ・ 習熟度別の授業についてのアンケート（5月、11月、3月）
- ・ 埼玉県基礎学力テスト（2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

町委嘱学校課題研究発表会（平成15年11月26日、伊奈町立南中学校）
 南部地区学力向上推進協議会連絡会（平成15年12月3日、伊奈町立南中学校）
 南部地区公立小・中学校等教頭研修会研究発表
 （平成16年1月28日、さいたま市民会館うらわ大ホール）
 南部地区学力向上研究協議会（平成16年1月28日、桶川市民ホール）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無